

学校防災授業の授業型の流れと授業の構成、ポイント

例) 想定する地形：丘陵地と川が流れる低地がある地域

想定する災害：土砂災害、河川洪水、内水氾濫

対象：4年生以上（できれば5-6年生）

必要時限：2時限～

※Step1・2以降については、確保できる時間に応じて適宜簡略化

段階	所要時間 (目安)	授業の構成、ポイント	子供たちへの問いかけ例
Step1 作る	45分	<ol style="list-style-type: none"> ① 今日のねらいの説明 ② 作り方の説明（切り抜き、重ね、貼り付け） ③ 生徒を班に分類（できれば自分の家があるエリアをつくれるとよい） ④ 班ごとにジオラマを組み立て ⑤ 各班でつくった段ボールを合体 	<p>（ジオラマ組み立て前）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 標高って？ ● まちで高いところ、低いところは？ ● 学校の標高は？
Step2 知る	45分	<ol style="list-style-type: none"> ① 学校や自分家の位置を確認する ② 街の構造、特徴、高低差などを確認※する（幹線道路、駅、線路、公園、川、ランドマーク等） <ul style="list-style-type: none"> （ア）ジオラマの中で一番高いところと低いところなどを確認する。→段ボールの枚数を数える。1枚5mで、5枚重なっていれば、・・・。 <p>※指差しだけで確認もありだが、川や道路だけでもマジックで塗る、セロファンで色を被せる、ピンを刺す、付箋を貼るなどいろいろな方法があり、生徒に考えてもらうことも主体的な参加の要素として有効。</p>	<p>（ジオラマによる Step1 の確認）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● まちで高いところ、低いところは？ ● 学校の標高は？ <ul style="list-style-type: none"> ● 何を感じた？ どんな発見があった？ ● どんな防災の課題がありそうか？

Step3 考える①	45分	<p>① 土砂災害や河川洪水の資料をみせ、これがこのジオラマの中で起きるとするとどこがありえるか、考えてもらう。</p> <p>② ハザードマップ等をつかって、土砂災害が起きそうな場所、大雨のときに水が浸水しそうな場所を確認する。</p> <p>③ 何に気をつけたらいいかを話し合う。</p> <p>④ ジオラマにどんな情報が載っていたらよいか（自分だけでなく、お年寄りなど地域の人にとっても）</p> <p><プラスワン> ジオラマにどんな情報が載っていたらよいか、家族やまちの人たちにインタビューをして意見を集める。</p>	<p>●どこが（なぜ）危なそうか？</p> <p>●このジオラマをどう活用すべきか？</p> <p>●このジオラマで何を伝えたいか？（友達、家の人、地域の人）</p> <p>★ジオラマを見る「他者」の存在を意識させる</p>
Step4 行ってみる（調べる）	45～90分	<p>① Step3の内容をもとに、実際に確認したい場所や探したいものなどをリストアップしたうえで、街歩きする。</p> <p>② 写真やメモをとり、戻ってから気がついたことを付箋等に出す。</p>	<p>●実際に見てどう感じたか？</p> <p>●思っていたのと違いはあったか？</p> <p>●新たに気がついたことはあったか？</p>
Step5 考える②	45分～90分	<p>① Step3～4で集まった情報を整理し、何を載せるかを取捨選択する。</p> <p>② ジオラマへの上記の情報の載せ方（見せ方）を話し合う。 （ア）シール、ピン、模型 （イ）着色方法（塗り、セロファンなど） （ウ）凡例の活用の有無 （エ）その他</p>	<p>●すべての情報を載せられそうか？</p> <p>●どの情報を、どのように載せる（見せる）のがよいか？</p> <p>●どうしたら伝わりやすいか？</p>
Step6 仕上げる	45分～90分	<p>① Step5をふまえてジオラマを仕上げる</p>	
Step7 共有する		<p>① 空き教室、公民館、駅、銀行などに展示し、地域の人たちにも見てもらう</p> <p>② 見た人たちから、感想やさらなる要望を聞いてもよい</p>	